

	更新前	更新後
診断区分	ii. 子宮頸部の悪性腫瘍 ^{※イ} 2. 微小浸潤扁平上皮癌 3. 微小浸潤腺癌 4. 扁平上皮癌 5. 腺癌 6. 腺扁平上皮癌 7. その他の子宮頸部原発性悪性腫瘍	ii. 子宮頸部の悪性腫瘍 ^{※イ} 2. 微小浸潤扁平上皮癌(A期の扁平上皮癌) 3. 微小浸潤腺癌(IA期の腺癌) 4. 扁平上皮癌(Ⅱ期以上) 5. 腺癌(Ⅱ期以上) 6. 腺扁平上皮癌 7. その他の子宮頸部原発性悪性腫瘍
	iv. 上皮内腺癌 (AIS)、子宮頸部上皮内腫瘍 (CIN)、および腺異形成	iv. 上皮内腺癌 (AIS)、子宮頸部上皮内腫瘍 (CIN)、および腺異形成 ^{※エ} ^{※エ} iv. 9～iv. 13が同時に発生している場合は、より番号が若い方に分類してください また、本欄に記載する結果は細胞診の所見から推定される病変ではなく、組織診の結果に基づいてお書きください
	v. がんの疑いまたは未確定 14. がんの疑いまたは未確定 ^{※ア} ^{※エ}	v. がんの疑いまたは未確定 14. がんの疑いまたは未確定 ^{※ア} ^{※オ}
	※ア. コルポ診未実施の者、またはコルポ・組織診にて異常を認めないが精密検査として同時に実施した細胞診にて異常が検出された者は以下の診断区分はv. 14に分類してください(例: 検診の細胞診結果がASC-USで、精密検査としてHPV検査や細胞診のみ実施しており、コルポ診が未実施の者) ^{※エ} . 精密検査受診者のうち、検査結果が子宮頸がんの疑いのある者、精密検査が継続中で検査結果が確定していない者はv. 14に分類してください 下の欄の「その後の処置」が「4. 治療済み」の場合はv. 14に分類せず最終診断区分をお書きください	※ア. コルポ診未実施の者、またはコルポ・組織診にて異常を認めないが精密検査として同時に実施した細胞診にて異常が検出された者は以下の診断区分はv. 14に分類してください(例: 検診の細胞診結果がASC-USで、精密検査としてHPV検査や細胞診のみ実施しており、コルポ・組織診が未実施の者) ^{※オ} . 精密検査受診者のうち、検査結果が子宮頸がんの疑いのある者、精密検査が継続中で検査結果が確定していない者はv. 14に分類してください 下の欄の「その後の処置」が「4. 治療済み」の場合はv. 14に分類せず最終診断区分をお書きください
vi. i～v以外の異常 ^{※オ} 15. i～v以外で良性病変 ^{※カ} 16. i～v以外で子宮頸部以外の悪性腫瘍 ^{※キ} ^{※オ} . i～vのいずれにもあてはまらない場合のみviに分類してください(i～vのいずれかにあてはまる場合の記入は不要です) ^{※カ} . 子宮頸部の尖圭コンジローマなどはvi. 15に分類してください ^{※キ} . コルポ・組織診にて子宮頸部には病変がない悪性腫瘍はvi. 16に分類してください(例: 卵巣がん、子宮体部に限局する子宮体がん)	vi. i～v以外の異常 ^{※カ} 15. i～v以外で良性病変 ^{※キ} 16. i～v以外で子宮頸部以外の悪性腫瘍 ^{※ク} ^{※カ} . i～vのいずれにもあてはまらない場合のみviに分類してください(i～vのいずれかにあてはまる場合の記入は不要です) ^{※キ} . 子宮頸部の尖圭コンジローマなどはvi. 15に分類してください ^{※ク} . コルポ・組織診にて子宮頸部には病変がない悪性腫瘍はvi. 16に分類してください(例: 卵巣がん、子宮体部に限局する子宮体がん)	
その後の処置	4. 治療済み (平成 月 月 日) ^{※ク} ^{※ク} . 治療済みの場合は上の欄の「診断区分」には最終診断の区分をお書きください	4. 治療済み (平成 月 月 日) ^{※ケ} ^{※ケ} . 治療済みの場合は上の欄の「診断区分」には最終診断の区分をお書きください